

倉田源右門議員



## ● 井戸設置の届け出制について ● 勝山市の繊維産業を新たな産業にする支援について

そのほかの質問

- ・人口減少に伴う財政シミュレーションについて
- ・産業振興施策について

一般質問

**問** 今年の豪雪時には断水地域が発生し、長期間給水制限する状況だった。この問題は、行政・市民・さく泉業者が勝山市の地下水（伏流水）が決して豊富ではないという認識がないことにあると思われる。地下水の現状を十分周知するとともに、早急に設置済みの井戸による取水の現状を把握し、揚水径1インチ以上の井戸を設置する場合、動水位、静水位の資料をつけて届け出するようにすべきと思うがどうか。

**答** 平成18年豪雪後、事業所並びに一般家庭における井戸水を使った融雪施設が、かなり増加していることは認識しているが、その数、揚水能力並びに取水量等については現在、把握できていない。今後、水道水源地周辺を中心に、揚水能力等を含めた地下水の利用状況の実態調査を行い、既存の施設を除き、新たに地下水の取水を行う施設等を対象に、制限等も含めた対応について検討をしていく。

**問** 勝山市の繊維産業は明治以来基幹産業として勝山の経済を支えてきた。しかし、製造品を量産型から高付加価値商品生産への転換が遅れた企業の衰退により、繊維産業全体が衰退したように見られがちだが、現在、繊維製品の分野は、スポーツや医療、土木や建築、宇宙や環境等300種類以上の商品分野で活用され、今や繊維産業は発展が期待される夢のある産業。勝山市の地場産業としてニューテキスタイル産業化、新しい繊維のまちにする支援を積極的に行うべきと思うが見解を伺う。

**答** 勝山市は、製造業をターゲットとし平成30年度において、「ふるさと勝山回帰事業」で企業のホームページの作成支援等を予定している。また、新商品の展示会への出店についても補助金による支援を行っている。勝山市の繊維産業には優れた技術の蓄積とオンリーワンの技術が存在する。これらの技術を今後新たな繊維産業の創出と活性化につなげるために、繊維業界がどのような支援を望んでいるのかを聞き取り、政策に反映したい。

乾章俊議員



## ● 勝山市観光まちづくり株式会社について ・ 行政支援の強化 ・ IT（情報技術）等の活用促進

そのほかの質問

- ・給水制限について
- ・水源の確保
- ・学校統廃合について

一般質問

**問** 訪れる観光客が快適に過ごせるサービスを提供し、当市経済の活性化を目指す重要な使命を担った当会社の運営が順調な滑り出しをし、軌道に乗るよう育成、支援していくことは初期段階の今が重要。

当市は観光産業の取り組み経験が浅く、行政と民間が役割を分担し、協力し、知恵を出し合って切り拓いていくことが基本。今は支援を供すべき時にある。如何か。

**答** 観光まちづくり会社が日本版DMOとして「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを進めていかなければ、勝山市の観光産業そのものが県内外との地域間競争を勝ち抜くことは難しくなると考える。

観光まちづくり会社は株式会社としての形態を選択しているが、勝山市としては長期的展望に立ち、観光の産業化を担う同社を支援していく必要があると考える。

**問** ITを駆使し生産性を高める経済活動の動きが急ピッチに進む。観光産業の振興を進める当市として、サービス産業分野における機器の導入、活用が経営を大きく左右するので、その対応を強化すべき。

4月にオープンする長尾山のジオターミナル案内所における市内飲食、宿泊、物販関係等との情報把握、伝達方法は電話連絡が主なのか。まずは実情把握の上、早急に計画的な対策を求めたい。

**答** ITを積極的に活用し、効率よくサービスを提供することは、観光客の利便性向上に繋がるとともに、インバウンド対策にも繋がることから、積極的な活用が必要と考える。平成30年度当初予算において、小規模事業者へのクラウドカード及び電子マネーの決済端末機を整備する費用の助成、バーチャリアリティなどを活用した勝山の魅力発信などを計画している。

ジオターミナル観光案内施設からの市内飲食店などの予約や情報把握については、市内の飲食店が多忙な時間帯であっても使いやすいシステムを研究している。まずは、電話による予約体制からスタートして徐々にレベルアップを図っていく。